

「道」としてのかかわり いづれくる道、 ともに生きていく社会へ

2019年6月に策定された「認知症施策推進大綱」の柱は、「共生」と「予防」です。

予防は継続性が^{かなめ}要です。

それには無理なく、楽しみながら自然と行える環境が必要です。地域の住民だけでなく、これからは企業や組織とも連携していくことが継続には欠かせないでしょう。

共生に関しては、なんと言っても認知症の理解が進んでいくことがとても大切です。

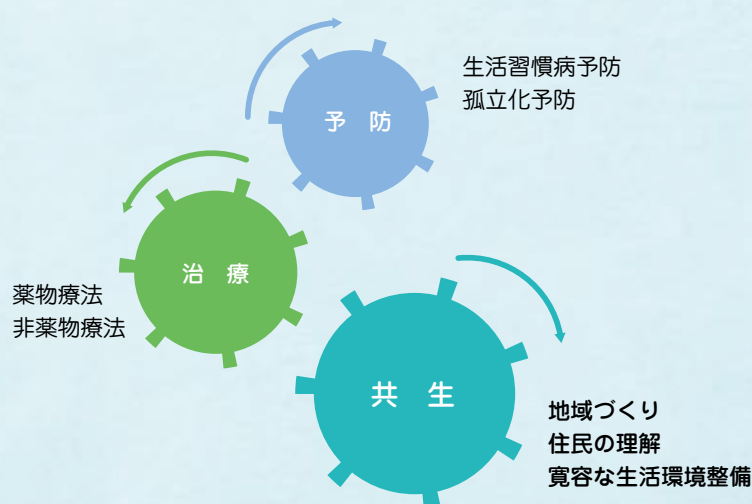
しかしそれは病気としての理解ではなく、その困難を抱えた時、なぜ自分が、自分の家族が、という問いかけを受け止め、ともに理解していこうとすることが必要だということの理解です。

これは「認知症の人と家族の会」が大切にしていることの一つでもあります。

次ページの熊野古道へのつづやきのように、ときに人の思い、みる風景は、時の流れとともに変わりゆき、形づくられていきます。

この先、未来に向かう子どもたちとともに、この世界に生きる認知症の人と家族のあり方はどのように変わっていくのでしょうか。

できれば、人としての多様性を尊重できる未来において、人と人がお互いにやさしく支えあえる社会への希望をつないでいきたいと思います。



世界遺産に指定された「熊野古道」

形ではなく、歩く道が世界の遺産として認められました

古道を歩く人の思いや見る風景は、

その時々、その人の思いにより異なります

「それでいいんだよ それがいいんだよ」

古道は静かに語りかけてくれます

その時の気分で、その時の想いで、

あなたの歩き方をすればいい

歩くのがいやならば ^{たたず} 佇めばいい…

この世に、たった一人しかいないあなたへ…

あなたが望む歩き方で… 感じ方で…

何かの事で、自分の歩みに困難を感じたとしても

焦らないでください

いつもそこに、色を変え、形を変え、姿を変えて

あなたが一人で頑張らなくてもよいように

あなたの歩みに添う人がいます

弱音をはいていい

強がってもいい

頼ってもいい

でも、ひとりじゃないことを

忘れないで

それでいいんだよ

それで

いいんだよ

